

平成 31 年仕事始め式 挨拶

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、仕事を始めるにあたり一言挨拶申し上げます。

昨年は、国立大学協会が 1 月に「高等教育における国立大学の将来像 最終まとめ」を取りまとめ、また、中央教育審議会から 11 月に「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」が答申されるなど、大学に対する全国的な中長期的展望が示された年となりました。今後は、これらを参考に本学の運営について検討していくことになります。

このような状況の中、本学では社会、地域のニーズに応えるべく大学改革の一環として全学の組織を見直し、昨年度までに医学系研究科看護学専攻博士後期課程、人間科学部、地域包括ケア教育研究センター、エスチュアリー研究センター、こころとそだちの相談センターの設置、教育学研究科やグローバル化推進機構の改組等を実施してきました。そして、今年度は生物資源科学部及び総合理工学部を改組すると共に、自然科学研究科博士前期課程、数理・データサイエンス教育研究センター、地域未来協創本部、総合博物館、イノベーション創出機構や先端素材共同研究所を設置するなど、さらなる大学改革を推進しています。そして、上述の取組を活用しながら教育については、各学部・研究科における 3 ポリシーに基づく教育を充実させると共に、地域貢献人材育成入試や C O C + 事業における様々な取り組みによる地域貢献人材の育成、英語高度化プログラムをはじめとする特別副専攻プログラムを活用したグローバル化教育等の強化を図っています。さらに、地域未来協創本部を中心に「じげおこしプロジェクト」を展開し、県内自治体との連携を強化し、地域のニーズに即した研究面からの地域に対する貢献も強化しています。厳しい環境におきましても、各部局そして教職員が一体となった取り組み、そして、地域の方々をはじめ多くの方々のご支援・ご協力により、本学の機能強化が進んでいることに感謝申し上げます。

本学の機能強化に関しましては、本学も大きな役割を担う「先端金属素材グローバル拠点の創出—Next Generation TATARA Project—」が島根県から申請され、昨年 10 月に採択されました。本プロジェクトは内閣府による地方大学・地域産業創生交付金事業として採択されたもので、島根県、日立金属と SUSANOO 等の特殊鋼関係県内企業と本学が中心となり、金属・特殊鋼関連産業においてドイツのフラウンホーファー研究機構型の生産・開発・研究拠点を島根県に創出し、島根大学と島根県の産業振興を図るものです。本学は、特に金属素材分野における基盤的研究とこの分野における高度技術者・研究者の育成を中心的に担います。覚悟をもって本事業に取り組み、本学の新しい可能性を創出し発展させ

ることにより、島根大学が光り輝く大学になることを目指します。

以前に増して社会の国立大学に対する視線は厳しく、教育・研究の可視化と確かな成果が求められていると共に、迅速で多方面に亘るさらなる大学改革が求められています。社会、大学を取り巻く環境の急速な変化に対応し大学改革を進めていくために、私たち一人一人が広く学外に眼を開き、社会の声を深く聴くことが必要と考えます。内的論理や従前の方法や考え方に捉われず、社会の変化や外部の声の本質を理解し、すべての業務に柔軟な発想力を発揮することにより、より良い大学改革が達成できるものと考えます。私たち一人一人が意識を変革し、従来担ってきた教育・研究における大学の役割を強化すると共に、島根大学が持続的に発展するオンリーワンの大学になるために、未知の世界にチャレンジする強い意志を持って先進的に教育・研究に取り組んでいきたいと考えています。

本学を取り巻く環境は厳しい状況ではありますが、地域をはじめ全てのステークホルダーの信頼に応え、誇りを持って学生が学び、教職員が働ける島根大学であり続けるために、教育、研究、診療の各領域で特色や強みを確立していきます。

本年が島根大学にとりまして、また、学生、教職員の皆様、そして全てのステークホルダーの方々にとりまして良い年になりますよう祈念して、年頭の挨拶とします。

本年もよろしく申し上げます。

平成 31 年 1 月 4 日
島根大学長 服部泰直